

『トンネルができた!』

3歳児 8月



エピソード

A 児は、砂場に置いてあるタンクの栓をひねり、トイに水を流し始めました。すると、近くにいた B 児が筒を持ってきて、トイの上に重ねました。保育者が「(筒の)中にも水が流れてきたね」と言うと、B 児は「トンネルや」と言いました。それを見ていた A 児は、持っていたシャベルの持ち手の部分をトイの上に乗せ、「先生見て!」と言いました。保育者が「すごい!ここもトンネルになったね」と言うと、A 児は嬉しそうに笑い、今度はタンクから出る水が通るように両手で輪をつくりました。「A くんの手もトンネルになった!」と保育者が言うと A 児はまた嬉しそうに笑って、しばらく両手でつくった輪の中に流れていく水を見ていました。それを見ていた B 児は細い筒を持ってきてトイに繋げ、その先にさらに目の前にあった透明のホースを繋げました。保育者が「やったね!トンネルここまで繋がったね」と言うと、B 児はにやっと笑いました。

保育者の思い

したい遊びを見つけるきっかけになればと思い、遊び始める前に砂場に穴を掘ったり、タンクの下にトイを立てかけたりしています。

A 児:いろいろな種類のトンネルをつくることを楽しんでいるのかな?

B 児:トンネルを長く繋げることを楽しんでいるのかな? それぞれがやってみたい!と思ったことを楽しめるよう、一人一人の思いに共感したり、目の前の状況を言葉にしたりしながら側で見守っています。

自分なりに考えてできた満足感を感じられるよう、できたものを認めたり、一緒に喜んで嬉しさに共感したりしています。

家庭だったら・・・

遊びや生活の中で、「みて!」「できたよ!」「あれ?」「なんで?」など、子どものいろいろな思いに共感したり、言葉やまなざしで応えたりすることで、子どもは受け止めてもらう安心感や満足感を得たり、自分なりに考えたり試したりする姿に繋がっていくと思います。また、遊びの中でうまくいったことを喜んだり、うまくいかないところは一緒に考えたりすると、子どもならではの新たな発想もうまれるかもしれませんね。

子どもの育ちや学び

- ・周りの友達や保育者がしていることに興味を持ち、自分もやってみようとしています。
- ・「トンネル」という自分の中にあるイメージを言葉で保育者に知らせています。
- ・周りのものや自分の体を使ってトンネルをつくる方法を考えたり、ものの形などから使えそうなものを選んで繋げたりしています。